東京未来大学

研究推進ニュースレター

Vol. 12

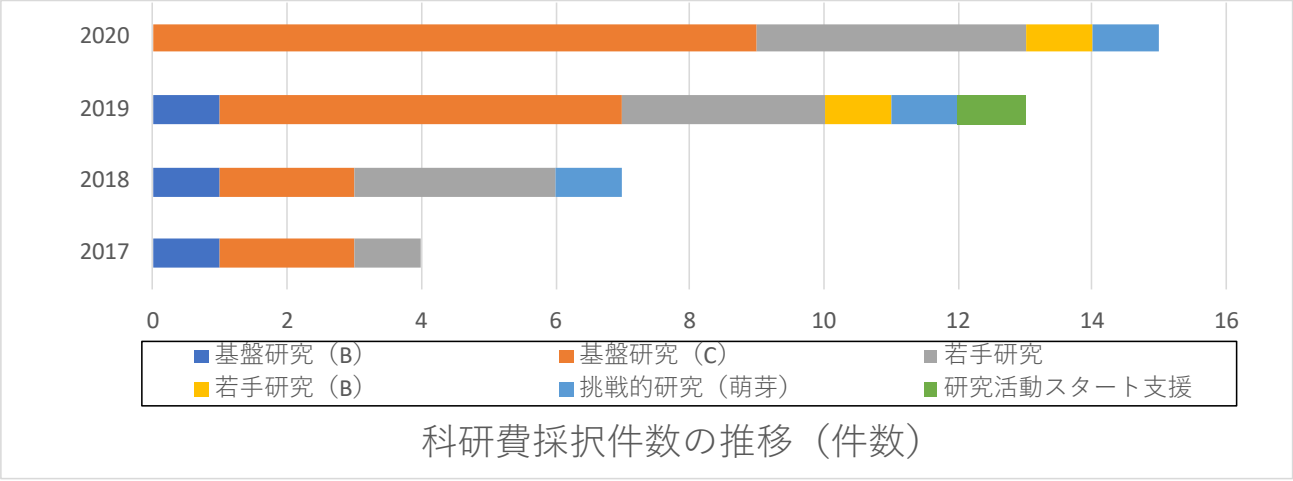
東京未来大学
研究推進委員会
2020 年 8 月 31 日発行

科研費ニュース

令和 2 年（2020）度、東京未来大学の科研費採択状況は以下の通りです。

	令和 2 年度		備考
	件数	金額（円）	金額は直接経費
基盤研究（C）	9 件	25,760,000	新規 3 件、平成 29 年度以降継続分 6 件
若手研究	4 件	11,580,000	新規 3 件、平成 30 年度より継続 1 件
若手研究（B）	1 件	2,300,000	平成 29 年度より継続
挑戦的研究（萌芽）	1 件	4,300,000	平成 30 年度より継続
合計	15 件	34,940,000	

平成 29（2017）年からの採択状況の推移をグラフにしました。毎年、徐々に採択件数が増加していることが分かります。



〈科研費採択テーマ一覧〉　※新規については＊を付す。

基盤研究（C）

＊大橋　恵　　青少年期のスポーツ経験による潜在的スポーツ観の違い
＊執行　智子　　中学校教員の専門を生かした小学校英語指導法のシラバス開発－CLIL を活用して―
鈴木　公啓　　歩きスマホ防止を目指した歩行時の頭部角度と心理状態に関する研究
鈴木　哲也　　学校における動物飼育の歴史的・倫理的・法的課題と展望
藤後　悦子　　発達に課題がある子どもへのチームスポーツ指導プログラムの開発とその評価
平部　正樹　　通信制高等学校生徒の QOL 向上のための総合的支援に向けた調査研究
＊柳生　崇志　　幼児教育・保育の無償化は沖縄の子育て環境・教育の貧困化対策として機能するか？
山崎　善弘　　姫路藩領における綿業の展開と領主権力・地域社会
横地　早和子　　芸術創作プロセスにおけるずらしと省察の関係からみる創造的な熟達過程の解明

若手研究

＊篠原　俊明　　体育授業を支援する基本的な動きに関する指導資料の作成と検討
＊仲嶺　真　　成人期未婚者のライフコースにおける恋愛の位置づけと支援可能性の検討

＊野中　俊介　　認知行動療法的観点における機能の変化がひきこもり改善プロセスに及ぼす影響
　埴田　健司　　風評被害の維持・抑止に関わる心的メカニズムの検討

若手研究（B）
西村　実穂　　事業所内保育所における防災に関する研究―災害時行動計画モデルの検証―

挑戦的研究（萌芽）
日向野　智子　潜在保育士の保育士就労促進に対する職場の人間関係と社会的スキルトレーニングの効果

その他

科研費以外の外部の研究費の採択状況は、以下の通りです。
公益財団法人東京応化科学技術振興財団
＊鈴木　哲也　STEM を取り入れた児童・生徒に対する実験教材の開発と実践

研究紹介(新規科研費採択者)

東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介いたします。今回は今年度の科研費を新規で採択された 6 名の先生、基盤研究（C）の大橋恵先生、執行智子先生、柳生崇志先生、の 3 名と、若手研究の篠原俊明先生、仲嶺真先生、野中俊介先生の 3 名、合計 6 人の先生にお話を伺いました。

大橋恵先生

Ｑ１　大橋恵先生、　採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。
ここしばらく、子どものスポーツに関わる大人たちのいざこざあるいは子どものスポーツの適切なサポートについて、藤後先生・井梅先生と楽しく共同研究をして参りました。その関係でいろいろな人と話していると、前提とするところで何かが違うという体験が何度もありました。その時、スポーツに対するイメージあるいはスポーツ感が、純文化系である私とはかなり違いそうだと感じたのが本研究のきっかけです。
以前より「無意識」の影響にはずっと関心を持っていました。本研究では、スポーツ感について、言語化できる顕在的な部分だけではなく、潜在的な部分を測定し、どのような違いがあるのか、何によって形成されるのかを見ていきたいと思っています。研究費の主な使い道は、実験ソフトの購入と実験室実験・オンライン調査の実施費用の予定です。

Ｑ２　研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。
今までの研究との連続性と研究意義をきちんと書くことが基本だと思います。これに加えて工夫したと言えることは、どの領域に出すかの検討です。私の専門は社会心理学なのですが、このテーマはあまり適切ではない（応用的過ぎる）ので、この点で一番迷いました。教育心理学、教育学とも迷ったのですが、今回はスポーツ科学にしました。候補となる領域でどのようなテーマの研究が過去に採用されたかをチェックして、自分の専門のこだわらず、領域を選ぶことも大切かと思います。

Ｑ３　研究の進捗はいかがですか？　また今後の展望についてお聞かせ下さい。
突然の遠隔授業化で取り込んでしまい、また実験室実験ができないこともあり、スタートが遅れています。ただ、スマホでも動く実験ソフトを購入したので、まずは夏休みに使い方を勉強するところから始めます。

執行先生

Ｑ１執行先生、採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。
研究課題名は、「中学校教員の専門を生かした小学校英語指導法のシラバス開発－CLIL を活用して―」です。現在、小学校教育における教科教育指導充実のために隣

接校種である中学校の教員が小学校教諭二種免許状を通常よりも軽減された単位数で取得できるようになっています。本研究では軽減措置の受講者である中学校教員が専門教科を生かした、教科横断を活用した CLIL 型授業を開発できるようにするために、「英語指導法」のシラバスの開発を行うことを目的としています。CLIL（Content and Language integrated Learning）は、ヨーロッパの外国語教育方法として発達しましたが、日本において担任教員が行う小学校外国語教育に適合しやすいと報告されています。CLIL の授業を行うためには英語と教科内容に精通していなければならないので、教科内容に特化、精通している中学校と小学校の両方の教諭免許状を取得している教員は CLIL 型の授業を行うことに向いています。

研究計画では、CLIL を用いた教員研修を行っている国内外の教育機関を訪問調査することから始める予定でしたが、COVID-19 の感染拡大のために、計画を見直しています。

Ｑ２ 研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

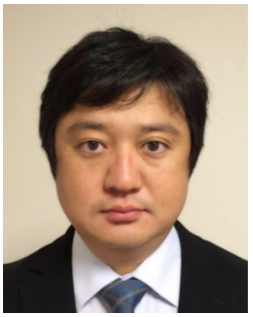
研究計画調書作成に当たっては分かりにくいことを分かり易くし、社会貢献できる研究であることを明らかにすることに工夫しました。さらに、応募する研究は、思いつきではなく、これまで自身が行ってきた研究が支えになっている、関係しているということが分かるように書くことに配慮しました。

Ｑ３ 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

渡航がなかなか難しい現在、日本で行われている優秀な先行研究を踏まえ、足元にある日本の教員養成とその文化、そして受講者をよく観察し、日本により適合した CLIL の教員養成、教員研修のあり方とその方法を研究していきたいと思っています。

柳生先生

Ｑ１ 柳生先生、 採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。



研究テーマは「幼児教育・保育の無償化は沖縄の子育て環境・教育の貧困化対策として機能するか？」です。本学の小林祐一准教授との共同研究として採択されました。2019 年 10 月から開始された幼児教育・保育の無償化が、深刻な貧困問題を抱える沖縄の“子育て環境および教育の質的低下”を防ぐための有効な施策として機能するかどうかを検証しながら、その効果を大きくするための統合的な子育て支援モデルを創生することをねらいとしています。

研究費は実地調査のための経費が多くを占めます。沖縄県内外、国外も含めて子育て支援に関するさまざまな場所を訪問し、教職員や利用者の状況を知ることが研究活動の中心となります。

Ｑ２ 研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

とにかくわかりやすく書く、レビュアーが一読しただけでわかるように平易に書くことを心がけています。また、審査結果の開示を希望し、その内容を参考にしています。たとえば、学術的な「問い」についての評価が低ければ、研究の独創性が明確に伝わるようなシンプルな問題設定を追求したり、研究方法の具体性の評価が低ければ、より詳細な実験計画や調査方法、分析手法を記載して、研究方法の妥当性をしっかり評価してもらえるように工夫したりします。また研究課題の設定については「旬」な切り口を持ちたいと考えています。「保育の無償化」は世間でよく議論されたわりには採択された科研費の課題名にはほんの数件しか含まれておらず、「保育」というキーワードが含まれる課題名が 1,000 件を超えているのと対照的です。

Ｑ３ 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

コロナ禍においては沖縄や海外の実地調査を行うことが難しく、スケジュールも方法も大幅な変更を余儀なくされています。研究内容的にもコロナの影響を無視することはできないので、新型コロナの感染拡大が子育て現場に及ぼす影響についても取り上げながら、Web の会議システムやアンケート機能等を活用して研究を進めていきたいと考えています。

篠原俊明先生

Ｑ１ 篠原先生、 採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

研究テーマは、「体育授業を支援する基本的な動きに関する指導資料の作成と検討」です。小学校体育科の運動領域には検定教科書がなく、そのため先生方は学習

指導要領解説や指導資料を活用することが多くなっています。また、2008 年の指導要領の改定に際して、新たな運動領域が新設されましたが、その運動領域に関する指導資料の蓄積は十分とはいえない状況にあります。これまで私は、新設された運動領域に関わる研究を行っており、その研究をベースとして、現場の先生方にご協力いただき指導資料を作成し、それを体育科の授業に取り入れ、授業資料の活用可能性を検証することを計画しています。

Ｑ２ 研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

これまでも同様の研究テーマにて研究計画書を作成してきましたが、なかなか採用されませんでした。そこで今回は、これまでの研究との連続性や現場の先生方との協働について強調したり、体育科の授業への介入方法および検証方法を従来よりも明確化したりしました。私は、ざっくりとしたデザインで研究を進めてしまう癖がありますので、年度ごとの研究を詳細に計画し、記載することが大切なのかなと思います。

Ｑ３ 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

研究の初年度である今年は、児童の運動場面の撮影を予定しており、この状況でなかなか厳しいですが、研究協力を得ている小学校と擦り合わせをしている段階です。一方で、撮影後の分析に必要となる文献や、2 年目に作成する指導資料で必要となる資料を収集しています。この状況下でもできることをやっていこうと考えています。

仲嶺先生

Ｑ１ 仲嶺先生、 採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

「成人期未婚者のライフコースにおける恋愛の位置づけと支援可能性の検討」が研究テーマです。恋愛に関する心理学研究は青年期を中心に行われてきました。成人期になったらほとんど結婚していたからです。ですが、ここ20～30 年前から結婚しない人も一定数存在する社会になり、成人期に入っても恋愛する人が増えてきました。そこで、そのような人たちが恋愛というものを自分の人生の中でどのように考えているのかについて、フォーカスグループディスカッションおよび生活史調査によって検討することを計画していました。

Ｑ２ 研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

科研費が定期的に採択されている社会科学がご専門の先生からアドバイスをもらいました。「明るい未来と少しのはったり」だそうです。明るい未来とは「この研究が進めば、少なくとも一部の人は幸せに、そして誰も不幸にならない様子をアピールすること」です。少しのはったりとはウソをつけという意味ではなく、「現状のままだと難しいかもしれないけれど、研究が予定通り進み、少し背伸びしたら届きそうな範囲の研究計画を練ること」です。このアドバイスを意識して書いてみて良かった点は、採択されたことはもとより、「なんだか頑張れそうな気がする」と自分の活力も高まったことです。

Ｑ３ 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

コロナ禍によって本計画の調査方法の見直しが余儀無くされています。人と（しかも集団で）接しなければ調査できないからです。とりあえずしばらくは現象を読み解く視点を多角化するために、様々な文献を読み漁りたいと思っています。

野中先生

Ｑ１ 野中先生、 採択された研究のテーマと概要、また主な使い道、計画などがあればお教え下さい。

採択された研究テーマは、「認知行動療法的観点における機能の変化がひきこもり改善プロセスに及ぼす影響」です。昨年度までひきこもりの方のご家族への心理的支援に関する研究を中心に続けていましたが、今回はご家族ではなくひきこもりの方への心理的支援に関する研究に挑戦しました。

今年度の主な使い道は、まずは自助グループや家族会、支援機関への調査依頼にかかる旅費があります。ひきこもりの方を対象とした研究では参加者の募集が非常に困難なため、参加者が見込めそうな団体を中心に幅広く依頼をする予定です。その他には、英文校正費、謝金、研究協力者とのミーティングのための旅費も計画してあります。

Ｑ２ 研究計画調書作成にあたってご苦労または工夫された点、アドバイスなどをお願いします。

もっとも時間をかけたのは、研究の位置づけを可能な限り一目で分かるように１ページ目に示した図を工夫することでした。その図を作成するときには、研究テーマにそれほど専門性をもたなくてもなるべく読み取っていただけるように図示することでした。その他には、なかなか参加者の募集が難しい研究テーマのなかで、これまで当事者家族団体と連携して行なってきた調査や講演などといった実績をアピールするように心掛けました。

Ｑ３ 研究の進捗はいかがですか？ また今後の展望についてお聞かせ下さい。

新型コロナの影響によって参加者の募集が難しいため遅れています。今後は、ウェブを使った心理的支援の基礎になる研究をしたり、外国との文化的背景の比較をしたりなど、関連分野の研究者の方たちとの連携を進めていきたいと考えています。

令和２年度 研究推進研修会

今年度の研究推進委員会の研修会は、科研費申請に向けてのオンライン講習会として、中安豪講師（ロバスト・ジャパン株式会社）による講演会「科研費の特性確認と申請書攻略」を配信しています。視聴期間は、8 月 19 日（水）13：00 ～ 9 月 1 日（火）18：00 で、質疑は 9 月 7 日(月)まで以下の URL か QR コードより受け付けています。研修会の事後アンケートも同じリンクからご回答できます。このアンケート結果については、次号でお伝えいたします。

http://prt.red/0/kenkyusuishin2020

それから、研修会のご案内で添付いたしました本学教員の研究キーワードを掲載いたしました。今年度は新任の先生も多く着任されましたが、コロナ禍のなかで、対面での交流が難しい状況です。この一覧が共同研究の推進の 1 つになることを期待していますので、どうぞご活用ください。

こども心理学部	研究キーワード
出口　保行	犯罪者、犯罪、防犯、バーナム効果、共感性
井梅　由美子	対象関係、親子関係、子育て支援
今井　康晴	ブルーナー、幼小接続、子育て支援
及川　留美	子育て支援・保育実践・保育者養成
太田　英樹	コーディネーターの機能と役割、授業研究、不登校支援、校内研修システム
大西　斎	教育権、教育行政制度、国民投票
大橋　智	コンサルテーション、言語行動
大橋　恵	自己、日本人、潜在的認知
紙本　裕一	聴く活動、継次処理、同時処理
川口　めぐみ	感情、感性、審美
川原　正人	ストレス関連成長、ネット依存
木内　菜保子	幼児教育・教員養成
金　瑛珠	保育者の専門性、子ども理解、子ども同士の育ち合い
高地　誠子	幼児音楽・ピアノ・音楽表現
越川　葉子	教育問題、逸脱、構築主義、質的調査
小谷　博子	妊娠、出産、育児、脳、女性
小林　久美	家庭科教育、生活技能、環境、生活
小林　祐一	ESD、保幼小連携、ICTの活用、授業研究
近藤　俊明	不登校の予防、異文化間の子どもの協働、Dreaming and Cortical Activation
佐々木　由美子	子どもと物語、保育文化財（紙芝居、絵本）、保育者の育ち
執行　智子	metalinguistic awareness, phonological awareness, primary English learning
篠原　京子	論理的思考力・表現力の育成、論理的文章と文学的文章の違い
篠原　俊明	運動発達、基本的な動き、体つくり運動、観察的評価
柴田　啓一	家族、ジェンダー、労働過程
白石　雅紀	子どもの貧困、国際福祉、マイノリティ研究
鈴木　哲也	学校飼育動物、生物教材史、実験教材
鈴木　公啓	装い、身体、身体化認知、対ロボット心理
須田　誠	描画、青年期、人材育成、臨床心理学的地域援助
髙橋　文子	記憶画、イメージ画のパターン類型、表現主題の言語化、教育的線描、老年美術教育
宅間　雅哉	気候地名、英語史、イングランド
竹内　貞一	表現の心理学，音楽科指導における合理的配慮
坪井　寿子	記憶・思考
藤後　悦子	子育て支援、スポーツハラスメント、親子関係、保育者のメンタルヘルス、特別ニーズ児、森田療法
永井　伸人	生活習慣・安全・からだにやさしい動き
西村　実穂	院内保育所、気になる子ども
野澤　義隆	夫婦関係、育児ストレス、子育て支援

こども心理学部	研究キーワード
野中　俊介	ひきこもり、児童生徒、認知行動療法
日向野　智子	対人関係、苦手意識、対人ストレス、ソーシャルスキル
平部　正樹	障害、QOL、学校メンタルヘルス
藤本　昌樹	愛着、家族、トラウマ
真家　英俊	運動制御、発育発達
柳生　崇志	子育て環境、教育の貧困化、沖縄の保育環境
横地　早和子	創造の認知過程、創造的熟達化、芸術創作過程
横畑　泰希	心の発達・言葉の発達・ブライセラピー・保護者支援
渡辺　千歳	認知発達、発達障害、知覚の特異性

モチベーション行動科学部	研究キーワード
角山 剛	モチベーション、キャリア形成
髙橋　一公	老年観、高齢者の学習意欲、保育士就労支援
磯　友輝子	対人コミュニケーション、社会的スキル、対人認知
岩﨑　智史	知覚、感性、感情
郭　潔蓉	東アジア、東南アジア、多文化社会、ダイバーシティ・マネジメント
金塚　基	教育格差、マイノリティ、多文化共生、教科外教育
小林　寛子	教授・学習、科学的思考、説明活動
篠崎　雅春	事業・商品開発、キャリアマーケティング、地域活性化
島内　晶	高齢者、メタ記憶、虚記憶、精神的健康
杉本　雅彦	ヒューマンインタフェース
田澤　佳昭	東シナ海、南シナ海、海洋法、領土
田中　真奈美	異文化適応、アイデンティティ、多文化共生
埴田　健司	社会的認知、非意識的心理過程、ステレオタイプ・偏見
三浦　卓己	マーケティング、消費者行動、ブランド構築、地域ブランド
森下　一成	まちづくり、コミュニティ、公共空間、協働、協創、キャリア教育
山極　和佳	催眠、心理療法
山﨑　善弘	国家・領主権力、中間層、地域社会

保育・教職センター	研究キーワード
浅井　かおり	遊びの始まりと終わり、保育者養成、乳児保育
北濵　千枝子	支援者支援　施設保育士の専門性
鈴木　亮太	授業論、社会科教育法、総合的な学習の時間、生活科、校内研修
長谷川　かほる	教員養成
吉田屋　幸子	子育て支援、保育実践、保育者養成

編集後記

今年度の研究推進委員会は、昨年度に引き続き、私、小林久美が委員長を務めております。また、同様に昨年度委員であった川原正人委員、山﨑善弘委員に加え、田澤佳昭委員、川口めぐみ委員の 5 人で運営して参ります。どうぞ委員会へのご協力をよろしくお願いいたします。

本号の作成にあたり、ご協力いただいた科研費の新規採択の先生方におかれましては大変感謝しております。また、キーワードを HP から抜き出して一覧にしたり、今年度の研究費の採択状況をお知らせくださったりした委員の先生方、研究推進委員会陪席の事務の方など、本当にありがとうございました。皆様のご協力で発行の運びとなりました。最新号、どうぞ、ご味読のほどよろしくお願いいたします。

編集担当　小林久美